

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年1月25日

上場会社名 JSR株式会社

上場取引所 東大

コード番号 4185 URL <http://www.jsr.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 小柴 満信

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長

(氏名) 宇野 毅

TEL 03-6218-3517

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	227,098	△22.8	11,302	△67.0	12,033	△64.6	6,075	△68.0
21年3月期第3四半期	294,032	—	34,219	—	34,004	—	18,963	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	24.87	24.85
21年3月期第3四半期	76.22	76.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	373,993	242,422	64.5	987.68
21年3月期	339,497	241,985	71.0	986.33

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 241,226百万円 21年3月期 240,896百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
22年3月期	—	13.00	—		
22年3月期 (予想)				13.00	26.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	307,000	△12.9	16,000	△47.3	16,500	△47.0	10,000	△28.5	40.94

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 255,885,166株 21年3月期 255,885,166株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 11,649,843株 21年3月期 11,648,666株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 244,235,863株 21年3月期第3四半期 248,793,731株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

経営成績

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から同年12月31日）の概況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、中国を中心としたアジア経済の改善を背景に輸出が増加し、経済対策の効果も加わり、在庫調整の進展から生産も増加するなど、緩やかに回復しました。しかしながら、設備投資の弱さや雇用・所得環境の厳しさなどの懸念材料を抱え、世界的経済危機以前の水準から比べると、依然として厳しい状況で推移しました。

当社グループの主要な需要業界におきましては、内外の景気刺激策により液晶テレビが前年を上回る需要となりフラットパネル・ディスプレイの生産は好調に推移しましたが、自動車、自動車タイヤ、半導体の生産は、当第3四半期（10-12月）には前年同期並みまで回復してきたものの、9ヶ月累計（4-12月）では前年同期を下回る水準にとどまりました。

原料面では、前年上期に高騰したナフサ価格が前年下期にいったん下落しましたが、当年度に入って再び上昇に転じ、石油化学系事業における主要原材料価格も上昇し収益の圧迫要因となりました。

このような状況のもと、当社グループは、石油化学系事業ではアジアを中心とした輸出の拡販とともに、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定に努め、情報電子材料を中心とした多角化事業ではグローバルマーケットでの展開に注力いたしました。また、従来から進めているコストダウン・プロジェクト「E-100」に加えて、固定費削減を中心とした収益対策を講じ、全グループ企業においてコスト削減に努めました。しかしながら、世界経済の停滞に伴う需要減少の影響が、当社グループの業績に大きな影響を及ぼしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,270億98百万円（前年同期比22.8%減）、営業利益113億2百万円（前年同期比67.0%減）、経常利益120億33百万円（前年同期比64.6%減）、四半期純利益60億75百万円（前年同期比68.0%減）となりました。

(単位：百万円)

区 分	前年第3四半期		当第3四半期		増減		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	比率	
売 上 高	エラストマー事業	100,897	34.3%	73,748	32.5%	△27,148	△26.9%
	エマルジョン事業	19,625	6.7%	12,560	5.5%	△7,065	△36.0%
	合成樹脂事業	52,526	17.9%	35,401	15.6%	△17,125	△32.6%
	多角化事業	120,983	41.1%	105,388	46.4%	△15,595	△12.9%
	合計	294,032	100.0%	227,098	100.0%	△66,934	△22.8%

国内売上高	176,500	60.0%	124,998	55.0%	△51,501	△29.2%
海外売上高	117,532	40.0%	102,099	45.0%	△15,432	△13.1%

区 分	前年第3四半期		当第3四半期		増減	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	比率
営業利益	34,219	11.6%	11,302	5.0%	△22,917	△67.0%
経常利益	34,004	11.6%	12,033	5.3%	△21,970	△64.6%
四半期純利益	18,963	6.4%	6,075	2.7%	△12,887	△68.0%



(部門別の概況)

(エラストマー事業部門)

合成ゴムの国内につきましては、スチレン・ブタジエンゴムやポリブタジエンゴムなどの汎用合成ゴムは、自動車タイヤ用需要の回復の足取りが弱く、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は前年同期を大幅に下回りました。ニトリルゴムやエチレン・プロプレングムなどの機能性特殊ゴムは、自動車生産が持ち直してきたものの、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は前年同期を大幅に下回りました。輸出につきましては、汎用合成ゴムを中心に中国をはじめアジア向けに拡販を行った結果、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は前年同期を上回りました。

ブタジエン系及びスチレン・ブタジエン系熱可塑性エラストマーなどのTPEにつきましては、海外需要が回復してきたことにより、当第3四半期の売上高は前年同期を上回りましたが、9ヶ月累計では前年同期を下回りました。

収益面では、コストダウン・プロジェクト「E-100」を推進するとともに、固定費を中心とした収益対策を講じコスト削減に努めましたが、需要が大幅に減少したことに加え、生産調整を余儀なくされたこと等により、採算が悪化し営業赤字となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエラストマー事業部門の売上高は前年同期比26.9%減の737億48百万円、営業損益は32億97百万円の損失となりました。

(エラストマー事業)

(単位：百万円)

	前年第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	100,897	73,748	△27,148	△26.9%
営業損益	8,666	△3,297	△11,963	—
営業損益率	8.6%	△4.5%	—	—

(エマルジョン事業部門)

主力製品の紙加工用ラテックスは、塗工紙生産が減少したことにより、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は、前年同期を大幅に下回りました。一般産業用ラテックスにつきましては、拡販により輸出は好調に推移しましたが、国内の需要減少の影響が大きく、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は前年同期を大幅に下回りました。

収益面では、コストダウン・プロジェクト「E-100」を推進するとともに、固定費を中心とした収益対策を講じコスト削減に努めましたが、需要が大幅に減少したことに加え、生産調整を余儀なくされたこと等により採算が悪化しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエマルジョン事業部門の売上高は前年同期比36.0%減の125億60百万円、営業利益は前年同期比83.7%減の1億32百万円となりました。

(エマルジョン事業)

(単位：百万円)

	前年第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	19,625	12,560	△7,065	△36.0%
営業損益	809	132	△677	△83.7%
営業損益率	4.1%	1.1%	△3.0%	—



(合成樹脂事業部門)

国内につきましては、自動車向けで持ち直しの動きが見られるものの、アミューズメント向けの需要が低調に推移するなど、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は、前年同期を大幅に下回りました。輸出につきましても、自動車、OA、アミューズメント向けなどの需要が減少し、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は、前年同期を大幅に下回りました。

収益面では、コストダウン・プロジェクト「E-100」を推進するとともに、固定費を中心とした収益対策を講じコスト削減に努めましたが、需要が大幅に減少したことに加え、生産調整を余儀なくされたこと等により、採算が悪化し営業赤字となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の合成樹脂事業部門の売上高は前年同期比32.6%減の354億1百万円、営業損益は3億8百万円の損失となりました。

(合成樹脂事業)

(単位：百万円)

	前年第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	52,526	35,401	△17,125	△32.6%
営業損益	2,199	△308	△2,507	—
営業損益率	4.2%	△0.9%	—	—

(多角化事業部門)

半導体製造用材料では、日本、アジア、米国において需要回復が鮮明になってきており、ArF（フッ化アルゴン）フォトリソトや多層材料を中心に売上が回復し、当第3四半期の売上高は前年同期を上回りました。しかし、年度前半の需要低迷が響き、9ヶ月累計の売上高は前年同期を下回りました。

フラットパネル・ディスプレイ用材料では、液晶ディスプレイ（LCD）パネルの生産が好調に推移したことにより、当第3四半期の売上高は前年同期を上回りましたが、9ヶ月累計の売上高は前年同期を下回りました。

光学材料では、光ファイバー用コーティング材料は、輸出ファイバーの需要が回復したため、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は前年同期をやや上回りました。反射防止膜材料や表面保護膜用材料は、薄型テレビの高精細化に伴い高付加価値分野での新規採用が拡大し、当第3四半期及び9ヶ月累計の売上高は前年同期を上回りました。

収益面では、コストダウン・プロジェクト「E-100」を推進するとともに、固定費を中心とした収益対策を講じコスト削減に努めましたが、需要が十分に回復していないことに加え円高の影響もあり、前年同期と比べて大幅に悪化しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の多角化事業部門の売上高は、前年同期比12.9%減の1,053億88百万円、営業利益は前年同期比34.5%減の147億76百万円となりました。

(多角化事業)

(単位：百万円)

	前年第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	120,983	105,388	△15,595	△12.9%
営業損益	22,545	14,776	△7,769	△34.5%
営業損益率	18.6%	14.0%	△4.6%	—



2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べて344億95百万円増加しました。

流動資産では、たな卸資産が在庫調整の進展により151億33百万円減少した一方で、有価証券が159億51百万円増加しました。また、受取手形及び売掛金（純額）は売上が回復していることに加え金融機関休日の影響から282億7百万円の増加となりました。流動資産合計は、364億76百万円の増加となりました。

固定資産では、有形固定資産は5億85百万円減少しました。固定資産合計では、19億81百万円の減少となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べて340億59百万円増加しました。

流動負債では、生産量の増加と金融機関休日の影響から、支払手形及び買掛金が316億72百万円増加しました。流動負債合計では、334億44百万円の増加となりました。

固定負債には大きな増減はなく、固定負債合計で6億14百万円の増加となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて4億36百万円増加しました。その他有価証券評価差額金が26億7百万円増加する一方、利益剰余金が21億94百万円減少しました。この結果、自己資本比率は64.5%、1株当たり純資産は987円68銭となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年10月26日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税金等調整前四半期純利益に当該実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当はありません。

5 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,544	16,909
受取手形及び売掛金（純額）	80,989	52,782
有価証券	37,443	21,492
たな卸資産	61,821	76,955
その他	27,141	22,323
流動資産合計	226,940	190,463
固定資産		
有形固定資産	90,890	91,476
無形固定資産	6,099	6,723
投資その他の資産	50,062	50,834
固定資産合計	147,053	149,034
資産合計	373,993	339,497
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	71,307	39,635
短期借入金	14,258	14,339
その他	24,048	22,194
流動負債合計	109,614	76,169
固定負債		
退職給付引当金	15,746	14,820
その他の引当金	3,187	3,215
その他	3,022	3,306
固定負債合計	21,956	21,342
負債合計	131,570	97,511
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,320	23,320
資本剰余金	25,179	25,179
利益剰余金	216,321	218,515
自己株式	△22,218	△22,216
株主資本合計	242,601	244,797
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,252	645
為替換算調整勘定	△4,627	△4,546
評価・換算差額等合計	△1,375	△3,900
新株予約権	398	310
少数株主持分	797	778
純資産合計	242,422	241,985
負債純資産合計	373,993	339,497

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	294,032	227,098
売上原価	214,457	174,960
売上総利益	79,575	52,137
販売費及び一般管理費	45,355	40,835
営業利益	34,219	11,302
営業外収益		
持分法による投資利益	1,083	1,133
その他	2,370	2,386
営業外収益合計	3,454	3,519
営業外費用		
減価償却費	794	611
為替差損	1,410	—
その他	1,465	2,177
営業外費用合計	3,670	2,788
経常利益	34,004	12,033
特別利益		
固定資産売却益	398	—
特別利益合計	398	—
特別損失		
たな卸資産廃棄損	—	1,728
事業再編損	—	1,156
投資有価証券評価損	2,778	—
たな卸資産評価損	1,685	—
その他	198	—
特別損失合計	4,663	2,884
税金等調整前四半期純利益	29,739	9,148
法人税等	9,947	3,050
少数株主利益	829	22
四半期純利益	18,963	6,075

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	29,739	9,148
減価償却費	17,968	15,721
受取利息及び受取配当金	△1,031	△455
支払利息	214	169
持分法による投資損益(△は益)	△1,083	△1,133
売上債権の増減額(△は増加)	△5,677	△28,520
たな卸資産の増減額(△は増加)	△10,673	15,503
仕入債務の増減額(△は減少)	7,499	31,089
その他	1,345	△3,328
小計	38,301	38,195
利息及び配当金の受取額	2,268	1,395
利息の支払額	△212	△172
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△15,898	989
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,459	40,408
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△15,836	△13,643
固定資産の売却による収入	407	—
投資有価証券の取得による支出	△1,612	△0
投資有価証券の償還による収入	2,000	—
関係会社株式の取得による支出	△300	—
貸付けによる支出	△2,998	△2,620
貸付金の回収による収入	1,676	1,708
その他	△5,340	738
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,003	△13,816
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△115	△113
長期借入金の返済による支出	△1,409	△4
自己株式の取得による支出	△5,764	△1
配当金の支払額	△7,973	△7,080
少数株主への配当金の支払額	△161	△6
その他	△2	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,426	△7,209
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,444	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△15,414	19,384
現金及び現金同等物の期首残高	61,724	37,125
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	255
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,309	56,765



(4) 継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	エラストマー事業 (百万円)	エマルジョン事業 (百万円)	合成樹脂事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	73,748	12,560	35,401	105,388	227,098	—	227,098
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	353	2,115	—	11,505	13,974	(13,974)	—
計	74,101	14,675	35,401	116,894	241,073	(13,974)	227,098
営業利益又は営業損失 (△)	△3,297	132	△308	14,776	11,302	—	11,302

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	エラストマー事業 (百万円)	エマルジョン事業 (百万円)	合成樹脂事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	100,897	19,625	52,526	120,983	294,032	—	294,032
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	457	3,743	—	10,732	14,933	(14,933)	—
計	101,354	23,368	52,526	131,715	308,965	(14,933)	294,032
営業利益	8,666	809	2,199	22,545	34,219	—	34,219

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分の方法は、事業目的において区分された項目別とし、その事業規模も勘案して、エラストマー事業・エマルジョン事業・合成樹脂事業及び多角化事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主 要 製 品
エラストマー事業	汎用合成ゴム、機能性特殊ゴム、熱可塑性エラストマー、原料ゴムの精練加工品等
エマルジョン事業	紙加工用ラテックス、一般産業用ラテックス、アクリルエマルジョン、原料ラテックスの精練加工品等
合成樹脂事業	ABS樹脂、AES樹脂、AS樹脂、ASA樹脂、合成樹脂の着色加工品等
多角化事業	半導体製造用材料(フォトレジスト、CMP材料、実装材料、多層材料等)、フラットパネル・ディスプレイ用材料(カラー液晶ディスプレイ用材料等)、光学材料(光ファイバー用コーティング材料、機能性コーティング材料、反射防止膜材料、耐熱透明樹脂及び機能性フィルム等)、機能化学材料(高機能コーティング材料、多機能高性能分散剤、工業用粒子、メディカル関連粒子等)、化成品、電子機器部品の検査治具・装置等



【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する 売上高	169,066	48,854	9,176	227,098	—	227,098
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	36,222	83	3,647	39,953	(39,953)	—
計	205,288	48,938	12,824	267,052	(39,953)	227,098
営業利益	7,469	3,355	476	11,302	—	11,302

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他の地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する 売上高	223,174	56,431	14,426	294,032	—	294,032
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	47,416	44	4,020	51,481	(51,481)	—
計	270,590	56,476	18,447	345,514	(51,481)	294,032
営業利益	29,150	3,896	1,172	34,219	—	34,219

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

(1) アジア……………中国、韓国、台湾、タイ

(2) その他の地域……………米国、欧州

【海外売上高】

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	アジア	北米	その他の地域	計
I 海外売上高 (百万円)	87,421	6,390	8,287	102,099
II 連結売上高 (百万円)	—	—	—	227,098
III 連結売上高に占める海 外売上高の割合 (%)	38.5	2.8	3.7	45.0

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	アジア	北米	その他の地域	計
I 海外売上高 (百万円)	96,784	10,041	10,705	117,532
II 連結売上高 (百万円)	—	—	—	294,032
III 連結売上高に占める海 外売上高の割合 (%)	32.9	3.4	3.6	40.0



- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
- 2 各区分に属する主な国又は地域
- (1) アジア……………中国、韓国、台湾、タイ、シンガポール
 - (2) 北米……………米国
 - (3) その他の地域…欧州他
- 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。
- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

【参考】

(1) 損益状況 <前年第1四半期からの四半期推移>

(単位:百万円)

	平成21年3月期					平成22年3月期		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期	第2四半期	第3四半期
売上高	101,395	106,642	85,994	58,470	352,502	67,652	75,291	84,154
営業損益	13,996	12,169	8,053	△3,872	30,347	△3,175	6,466	8,011
経常損益	15,803	12,018	6,182	△2,893	31,111	△2,494	5,602	8,925
四半期純損益	8,712	7,492	2,758	△4,981	13,981	△4,609	4,160	6,524

(2) 事業の種類別セグメント情報 <前四半期との対比>

(単位:百万円)

	平成22年3月期 第2四半期		平成22年3月期 第3四半期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エラストマー事業	24,313	67	30,092	1,030	5,778	962
エマルジョン事業	4,128	199	4,796	411	667	212
合成樹脂事業	12,042	548	12,685	344	643	△204
多角化事業	34,806	5,650	36,580	6,225	1,774	574
連結	75,291	6,466	84,154	8,011	8,863	1,545

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 <前年同期との対比>

(単位:百万円)

	平成21年3月期 第3四半期累計期間	平成22年3月期 第3四半期累計期間	増減
営業キャッシュ・フロー	24,459	40,408	15,948
投資キャッシュ・フロー	△22,003	△13,816	8,186
財務キャッシュ・フロー	△15,426	△7,209	8,217
現金及び現金同等物	46,309	56,765	10,455